

# 業界新聞に当社大西社長の紹介記事

大西物流（本社・愛媛県四国中央市、大西三喜男社長）は製紙関連の輸送を基盤に、その他の分野で20年以上前から、複数メーカーの商材を扱うハブ・アンド・スポーク型の共同配送に注力。年々売上比率を高めてきた。前期は2期連続の増収増益で、「顧客と社員に恵まれた」と大西社長。今年3月に仙台、6月には神戸に拠点を開設し、関東、関西圏での事業拡大で成長を目指す。

## 大西物流社長インタビュー

――前期の業績は。

大西 増収増益だった。売上高は前期に比べ1・4%増の60億5500万円。目標の63億円には届かなかったが大台には乗った。荷主に恵まれ、社員は勤勉。輸送品質でメーカーから評価されることも多い。

――今期はどうみる。

大西 増収の見通しだが減益は避けられないのではないかと。コストアップ要因が少なくない。軽油価格が上昇に転じ、人件費、備車費も上がっている。

――製紙関連貨物の取り扱いがメイン。

大西 本社がある愛媛県四国中央市は製紙業が盛んで、売りの2割強を占

める。当社は昭和29年、製紙会社の運輸部門が独立して発足した会社でもある。幹線から配送までトータル

――共同配送が強み。

大西 製紙以外の荷物を

を始めた。四国中央市は4万8000平方メートルの倉庫群がある。共同配送は日量200〜300トンの取り扱いがあり、品目は食品、菓れ、高速道路も早期に開通した。長距離貨物切りの輸送に比べ幹線輸送、保管、流通加工、配送をトータルで行うことは他社との差別化

## 共同配送に活路

### 顧客と社員に恵まれ

取り込む必要があると、20年以上前から、本社周辺にある四国中央市に荷物を集約し、四国全域に配送するハブ・アンド・スポーク型の物流サービスで共配

――規模は。

大西 四国中央市ポの延べ床面積は約9000平方メートルで、ほか本社周辺に計1

を関東、関西などに輸送した後の帰り荷にもなり、積載率が向上する。集めた貨物は四国中央市で仕分けなど流通加工を行い、自社、協力会社を合わせ約1000台の車両で四国各地に配送する。

――どこを強化しているか。

大西 四国は人口減少で物量に限りがある。関西、関東圏の豊富な需要を取り込んでいく。拠点を新設する神戸には顧客も多い。徳島など四国東部向けの荷物は、神戸から運んだ方が効率的だ。四国中央市が手狭になっており、倉庫内作業の効率化、安全確保の面でも効果が見込める。

3月仙台、6月神戸に拠点

――関東、関西にも倉庫を持つ。

大西 埼玉県越谷市と大阪府大東市に支店を構え、それぞれ倉庫を併設している。3月に仙台、6

大西 状況は都市部より厳しいのではないかと。四国中央市には製紙工場など働く場所が多く、パート・アルバイトの供給は高騰している。人材確保には運賃値上げが欠かせないが、簡単ではない。輸送品質を武器に、品質の維持・向上にはコストがかかるということ

――集配はどのように。

大西 集荷は主に大型車を各地区でも輸送ネットワークを構築している。